

～支え合いで、すすめよう地域福祉～

問い合わせ P 12 ~ 13 福祉課 福祉政策係(内線363) ページD:20279
高齢者支援課 包括支援センター係

地域での支え合い、助け合いによる福祉＝地域福祉をすすめるために、さまざまな活動が行われています。今回は、地域で協力して支援マップを作り、活用する取り組みを紹介します。

地域のみんなで 支援マップ



向佐野区自治会の皆さん

向佐野区自治会では、地域の皆さんのが安心して暮らせるように、オリジナルのマップを作成しています。個人情報に配慮しながら、限られた人が緊急時に確認して、災害時などに活用しています。また、民生委員・児童委員の力を借りながら、常に最新の状態の地図に更新しています。

このようにして作られました



マップを作った皆さんに聞きました



自治会長の川邊 秀夫さん
向佐野区自治会長として4年間、地域で暮らす住民のより良い生活のために、日々活動を続けている。



民生委員・児童委員の岩男 澄子さん
向佐野区の副自治会長を務めながら、住民に寄り添う民生委員・児童委員としても活動している。



防災・防犯部会の中嶋 幸博さん
元消防署勤務の経験を活かし、住民の安全安心のため、災害対策や防犯に関する活動をしている。

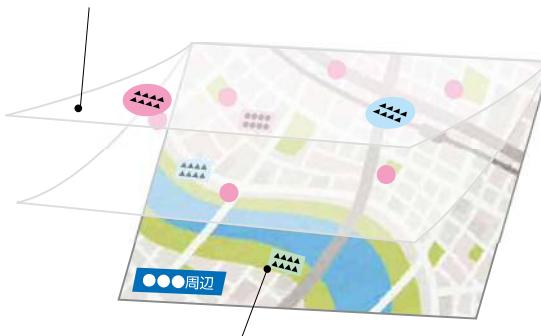
①高齢者を訪問
民生委員・児童委員が日ごろの見守り活動を通して各家庭を訪問しながら、体の調子や生活の様子を尋ねて、確認しました。

②マップを作成
訪問で知った情報をもとに、伝えられる範囲で情報共有し、自治会の役員の皆さんで支援マップを作りました。隣組長からも支援が必要な人がいるのか情報を得て、マップ作りに反映させました。

支援マップの効果は?
災害が起きたとき、危険なエリアに住んでいる高齢者に連絡することができます。ひとり暮らしの高齢者から避難について問い合わせがあつた際にも、マップを使うことで素早く対応できました。公民館に避難した人から「ありがとうございます」と言われ、その人が笑顔で帰る姿を見たときに嬉しく思います。

災害が起きたときばかりでなく、日ごろから支援マップを見て高齢者の人の顔を思い浮かべ、次の見守り活動の日程を考えています。自治会で活動している中で、相手が喜ぶことにやりがいを感じています。このマップをさらに充実させ、活用していきたいと思っています。

地域の全域が載っている地図の上に、複数枚の透明なシートを重ねています。



シートごとに、ひとり暮らしの高齢者や緊急時支援が必要な人など、状況別に色分けしたシールを貼っています。

